

福太郎アリーナ空調工事に伴い会場の変更となる二十歳の集いについて

後関 俊一 議員

二十歳の集いが会場変更となった理由及び実施方法を伺います。

福太郎アリーナが空調改修工事等に伴い休館するため会場をさらに鎌ヶ谷市民会館に変更して開催することになりました。さらにホールの収容可能人数は一般席で530人のため、本年度の対象者約1千人を約半数に分け、二部制での開催とします。

会場の変更の際に、配慮した点を伺います。

さらに鎌ヶ谷市民会館は初富駅からも近く、交通の利便性の高い立地にあるため、鎌ヶ谷警察署とも協議し、道路整理員を配置の上、周辺の交通渋滞の抑止に努めます。なお、当日は会場まで車の送迎が予想されるため、会場近くの中央地区公共施設第1駐車場を降車専用の場所とし、



二十歳の集い

車で来場される場合は、市役所の駐車場を利用いただくよう案内します。

土砂災害防止法(※2)の本市における指定区域について

河内 一朗 議員

新たに土砂災害警戒区域に指定される箇所について伺います。

令和6年8月時点の県からの通知では新たに31箇所の指定が予定されています。

指定への理解を示す声のほか、2つの基準で一律に指定されることへの疑問の声や指定区域の見直しを求める要望もありました。

土砂災害から命を守るという法の趣旨を踏まえつつ、県から意見照会に対しては、安全性の法的基準を満たしているという市民の皆様のお気持ちを酌んだ回答をしたいと考えています。

道府県知事は、市町村長の意見を聞いた上で区域を指定しますが、県に対し、どのような意見を発信しますか。

土砂災害から命を守るという法の趣旨を踏まえつつ、県から意見照会に対しては、安全性の法的基準を満たしているという市民の皆様のお気持ちを酌んだ回答をしたいと考えています。

スポーツ振興について

伊福 幸一 議員

過去の一般質問においてeスポーツの推進を要望しましたが、その後の進捗状況を伺います。

全国の自治体の中には、年齢や障がいの有無などを越えて誰もが参加することができるeスポーツの特性を生か

して、地域活性化に繋がった事例がありますが、その件数はまだ少ない状況です。本市としては、eスポーツを取り巻く社会的な情勢を注視しながら、行政としての関わり方を研究していきます。

スケートボード施設の設置については、近隣のスケートボード施設の利用状況等を調査、分析し、公営施設として管理運営する場合の課題や周辺への影響がない場所の確保などについて調査研究をしていきたいと考えています。

市議会キッズページ

子どもたちに市議会を身近に感じてもらうため、「実際にあった市議会ストーリー」や「市議会での話し合い」、「市議会Q&A」などに項目を分けて、わかりやすく紹介しています。市議会ホームページでご案内していますので、ご覧ください。



鎌ヶ谷市の脱炭素の取組について

針貝 和幸 議員

生ごみ処理容器等購入費の補助金の推移を伺います。

令和3年度の補助金額は28万1千円、令和4年度は32万6千円、令和5年度は32万2千600円です。

過去5年間の生ごみ処理容器等購入費補助金の予算額を伺います。

令和5年度までの過去5年間の予算額は、各年度とも32万4千円です。

令和6年度の生ごみ処理容器等購入費補助金の交付決定状況と現在の予算残額を伺います。

令和6年9月10日現在で交付決定額は32万2千400円となり、予算残額は1千600円です。

今年度は、半年しか経過していませんが、生ごみ処理容器等購入費補助金の拡大や



事業系生ごみ処理機への補助金について伺います。

生ごみ処理機は食品ロスの削減に有効な手段の一つであり、社会全体に普及することにより、循環型社会を構築するための廃棄物の減量や資源化につながることから、引き続き調査研究をしていきます。

人口増加策としてのシビックプライドの醸成について

泉川 洋二 議員

シビックプライドの必要性について、市の考えを伺います。

シビックプライドは、鎌ヶ谷市総合基本計画の基本構想における基本理念である「みんなでつくるふるさと鎌ヶ谷」と同様の考え方であり、市民、事業者、行政が自分たちのまちは自分たちでつくるという姿勢のもと、連携して取り組んでいくうえで重要なものと認識しています。

防災行政無線や市役所で取り入れてはいかがですか。

防災行政無線を「ふるさと」から「さらに鎌ヶ谷」に変更する場合、PTA連絡協議会との調整などの課題を整理する必要がありますが、市役所では、「さらに鎌ヶ谷」を使用すること、市民の皆様が郷土への愛着と連帯感の醸成に有効であるため、できる限り多くの場面で「さらに鎌ヶ谷」の活用を検討していきます。

近年の災害を踏まえた本市の防災対策について

富田 信恵 議員

能登半島地震の被災地に市職員を派遣した経験を踏まえ、力を入れていく取組を伺います。

派遣した職員からは、災害発生から72時間までの急性期において、避難所と救護所が併設することによる混乱等が大きな課題となると報告が

あったことから、令和6年6月に開催した鎌ヶ谷市災害医療検討部会では、病院前に救護所を設置し、トリアージ(※3)を行う体制を検討する方向性が示されました。

個別計画はありませんが、21箇所の指定避難所のうち、小中学校6校では、椅子対応トイレを含む各10基のマンホールトイレを整備し、その他15箇所の指定避難所では各2基の椅子対応トイレを整備しており、備蓄の仮設トイレ25基と合わせて合計305基を確保しているため、内閣府の示す避難所におけるトイレの確保・管理ガイドラインの基準を満たしています。

北千葉道路早期供用に向けて今すべきことについて

伊藤 仁 議員

先般、北千葉道路の事業主体である県の担当者と話した際に、「北千葉道路についての議論は今始まったばかりである。だからこれから走りながら考えていきましょう。」と仰っており、それは、県も市も市民も共に考えながら、今できることを進めるとい

ことだと思えますが、市は、北千葉道路の在り方を議論していくことに、積極的に参加してもらえますか。

様々な意見を踏まえた上で現計画となっていることから、市としては現計画で早期に整備が図られることが有益と考えています。

北千葉道路は現計画の高架式では市民にとって迷惑施設になりかねないため、地下に埋めてその上を都市公園のように整備することで地権者の土地の売却の同意も得られやすいかと思いますが、市の見解を伺います。

鎌ヶ谷市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度について

佐藤 剛 議員

鎌ヶ谷市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度の概要を伺います。

パートナーシップ・ファミリーシップ届出証明書やパートナーシップ・ファミリーシップ届出証明カードを交付することで、パートナーシ

関係にある双方及び子または親等が家族として生活する関係を証明するものです。

関係にある方々の届出を市が尊重し、誰もが大切なパートナーや家族と共に自分らしく暮らしていけるよう市が応援するものです。この制度の導入をきっかけとして、多様なパートナーシップや家族の在り方に対する社会的な理解が深まり、それらの関係性を尊重する取組が広がっていくことを期待しています。

ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムの移転報道について

大野 幸一 議員

移転報道があった際、市ではどのように対応したのか伺います。

報道を受けて、幹部職員が登壇し、直ちに球団に報道内容の確認を行いました。球団からは、「ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムは建設以来27

年が経過し、老朽化が進んでいることもあり、その対応などは、今後必要となってくるが、現段階において具体的な決定している事項は一切ない」との回答を受けています。

今後の対応を伺います。

(※2) 土砂災害防止法：土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

(※3) トリアージ：傷病の状況に応じて治療の優先度を定めること